

2.1 アーチェリークラス

アーチェリーは次のクラスからなる。

ARW1 (サブクラス ARW1-C)

ARW2

ARST (サブクラス ARST-C)

このサブクラスは、国内レベルでアーチャー育成の場合のみのものであり、国際試合では適用されない。

2.2 機能的クラス分けシステム

このクラス分けシステムは障害像と運動能力を点数化したものをガイドラインとして用いる。

2.3 運動障害

2.3.1 運動能力は以下のテストを用い評価（点数化）する。

筋力テスト

協調性テスト

関節可動域（ROM）テスト

2.3.2 合計 340 点を満点とする。（健常者のアーチャーに相当）

身体部位	点数
両上肢	180 点
体幹	60 点
両下肢	100 点
合計	340 点

2.3.3 競技への参加資格は以下のいずれかの条件を満たしていることが必要である。

両上肢で 25 点の減点

体幹で 20 点の減点

両下肢で 15 点の減点

合計で 25 点の減点

2.3.4 引き続きシューティングの観察を行い、評価ポイントを更新する。この方法により、シューティング時の機能的能力が評価できる。

2.4 クラス分けの手順

2.4.1 少なくとも3名以上の公認クラシファイヤー（内、少なくとも1名はメディカルスタッフ（PTまたはドクター））でクラス分けチームを構成する。

2.4.2 クラス分けチャートに個人情報を書き込む。

2.4.3 診察用ベッド（水平のもの）でテストを行う。

2.4.4 ベンチテストの実施。

下記より適切なテストを選択する。

筋力テスト

協調性テスト

関節可動域（ROM）テスト

切断部位の評価

2.4.5 重複障害のアーチャーに対して、クラシファイヤーはその障害に応じたテストを個々に行い、各項目で重度な方を採用する。

2.4.6 ルール上使用が認められる補助具について記載する。

2.4.7 シューティングテストを行い、必要ならば運動障害の点数を更新する。

2.4.8 注意：肩の機能が不十分な場合は、シューティングテストの評価を加味する事が重要である。

2.5 点数評価

2.5.1 筋力テスト

- 0 Zero : 筋収縮無し
- 1 Trace : 筋収縮のみ、運動はみられない
- 2 Poor : 重力除去位で全可動範囲の運動が可能
- 3 Fair : 重力に逆らって全可動範囲の運動が可能
- 4 Good : 重力に逆らって弱い抵抗に対して全可動範囲の運動が可能
- 5 Normal : 重力に逆らって強い抵抗に対して全可動範囲の運動が可能

2.5.2 ディスファンクション（協調性、痙性、アテトーゼ、失調）テスト

- 0 : 機能的な運動が全くみられない
- 1 : 重度の筋緊張の亢進により協調性のある動きがほとんど見られない、あるいはきわめて少ない運動範囲
- 2 : 重度の痙性や筋緊張亢進により、連続した協調運動がきわめて困難であり、非常に遅い運動である、もしくは早い繰り返しでは運動範囲が 25%を超えない
- 3 : 運動は緩慢で粗雑ではあるが、概ね失敗なしに行われる。また、早い繰り返しでは運動範囲が 50%を超えない、あるいは中等度の痙性や筋緊張亢進により中等度の運動範囲

- 4 : 軽度の協調運動困難を伴う、または早い繰り返しでは運動範囲が 75%を超えない、あるいは軽度の筋緊張亢進が認められる
- 5 : 正常

2.5.2.1 痙性を有する、あるいは失調、アテトーゼのアーチャーについては協調性テストを行う。
(素早い、繰り返しの運動)

2.5.2.2 上下肢の連合反応についてシューティングテストで注意深く観察する必要がある。

2.5.2.3 上肢および上部体幹については、拮抗筋の反応や協調性の影響などを考慮する必要がある。

2.5.2.4 姿勢反射の影響について示すために、シューティングポジションでの頸の回旋運動を繰り返して行うテストを実施する。

2.5.2.5 体幹の協調性評価は主にシューティングテストにおいて行う。これは不良な姿勢や運動が、機能障害のために起こっているのではなく、選手の技術レベルによるものなのか、あるいは弓具や補装具による問題なのかについてよく見極める必要があるからである。

2.5.3 可動域テスト

- 0 : 可動域ゼロ
- 1 : 最小限の可動域
- 2 : 1/4 の可動域
- 3 : 1/2 の可動域
- 4 : 3/4 の可動域
- 5 : 100%の可動域

2.6 クラスプロフィール

2.6.1 ARW1

車椅子使用の四肢麻痺（頸髄損傷）あるいはそれに相当する障害のアーチャー

2.6.1.1 運動機能のプロフィール

上肢：機能的な可動域、筋力、協調性が制限されている

加えて

体幹：シューティングポジションで弓を持ち上げた時にバランスをコントロール又は安定させる筋力が弱い又はない。

または

下肢：切断、可動域制限、筋力低下または協調性不全のため、通常は機能しない（長距離を歩行することはほとんど不可能）

2.6.1.2 障害のプロフィール

四肢麻痺

上肢の協調性の問題や上肢の痙性を有している四肢麻痺、三肢麻痺あるいは重度の両麻痺（痙性のグレード2～4） / （肩や引き手の肘関節や両手指の機能の問題によるドロウウエイトの制限がある。ただし手関節の問題は含まない）

股関節固定を伴った両側の下腿切断、短断端（近位1/3）の両側の大腿切断で、これらは上肢の切断や上肢の機能的な関節可動域、筋力、協調性の制限を伴っていなければならない。

2.6.1.3 ARW1 は少なくとも体幹において 15 ポイント、あるいは両下肢において 35 ポイント、あるいは体幹 8 ポイントと両下肢 20 ポイント以上の障害を有し、かつ、それぞれの上肢において 5 ポイント以上の障害があること（以下参照）

左上肢	右上肢	体 幹	両下肢
5	5	15	
5	5		35
5	5	8	20

2.6.2 ARW1-C

ARW1 のアーチャーのうち、より重度の障害があるものはサブクラス ARW1-C に分類され、国内または育成レベルの競技会において、ファシリテートラウンドで競技することができる

2.6.2.1 ARW1-C は、少なくとも体幹において 15 ポイント、あるいは両下肢において 35 ポイント、あるいは体幹 8 ポイントと両下肢 20 ポイント以上の障害を有し、かつ、それぞれの上肢において 20 ポイント以上の障害があること（以下参照）

左上肢	右上肢	体 幹	両下肢
20	20	15	
20	20		35
20	20	8	20

2.6.3 ARW2

車椅子使用の対麻痺（胸腰髄損傷）あるいはそれに相当する障害のアーチャー

2.6.3.1 運動機能のプロフィール

- ・ 両上肢：機能的な可動域、筋力、協調性において特に制限はない
- ・ 体幹：シューティングポジションで弓を持ち上げた時の協調性や静止バランスが「良好～非常に乏しい」あるいは「ない」
- ・ 両下肢：切断や関節可動域の制限、筋力あるいは協調性の低下のために機能しない（長距離歩行困難）

2.6.3.2 障害のプロフィール

- ・ 対麻痺（様々な体幹バランスの障害度を含む）
- ・ 両上肢の協調性に問題がない重度の脳性麻痺（両麻痺）（様々な体幹バランスの障害度を含む）
- ・ 両下肢に中等度の痙性（痙性のグレード3またはそれ以上）
- ・ 両下腿切断（例外的な場合や国際クラシファイヤーに承認された場合）

2.6.4 ARST

スタンディングアーチャーないし椅子/腰かけを使用するアーチャー

2.6.4.1 障害のプロフィール

両下肢：長距離歩行ができる

2.6.4.2 ARST は、両下肢において 15 ポイント（少なくとも片下肢において 10 ポイント）、あるいは少なくとも全体において 25 ポイント、あるいは 7cm 以上の脚長差があること

2.6.5 ARST-C

ARST アーチャーのうち、上肢に重い障害があるものはサブクラス ARST-C に分類され、国内または育成レベルの競技会において、ファシリテートラウンドで競技することができる。

2.6.5.1 ARST-C は少なくともそれぞれの上肢において 20 ポイント、あるいは引手の上肢において 40 ポイント以上の障害があること

2.7 補装具

2.7.1 各競技者が使用する補装具は FITA 規則に準ずるものでなければならない。

2.7.2 いくつかの補装具については、公認 IPC アーチェリークラシファイヤーによって認定されれば、使用することができる。

クラシファイヤーはクラシフィケーションフォームの補装具欄に認証された補装具を記載しなければならない。標準外の補装具は全てクラシフィケーションパネルに表記し、クラシフィケーションフォームに含まれなければならない。

- ・ 木製の脚台用ブロック
- ・ 腰かけ / 椅子
- ・ 義肢

2.7.2.1 車椅子

- ・ 両下肢および体幹において少なくとも 50 ポイント以上の障害がある場合、使用できる。
- ・ どのようなタイプの車椅子でも公認原則に記載され、車椅子と意味する物は使用を許可される。
- ・ シューティングの際、車椅子のいかなる部分においても押し手を支えてはならない。矢をリリースする時、弓が車椅子に触れてはならない。
- ・ ARW2 のアーチャーの場合は、背もたれがないか、あるいは背もたれの一部がサイドサポートとして体幹の厚みの 1/2 以上前方に飛び出しているはならない。いかなる距離のシューティングに際しても、車椅子のどの部分も腋窩（腋の下）より 11cm 下になければならない。
足やフットレストが地面についてはならない。車椅子は FITA に認定されているシューティングスペースを超えてはならない。

2.7.2.2 椅子 / 腰かけ

- ・ 少なくとも両下肢および体幹において 38 ポイント以上の障害があれば使用して良い。
- ・ どのようなタイプの椅子 / 腰かけでも公認原則に記載され、椅子 / 腰かけと意味する物は使用を許可される。
- ・ シューティングの際、椅子のいかなる部分においても押し手を支えてはならない。矢をリリースする時、弓が椅子に触れてはならない。
- ・ いかなる距離のシューティングに際しても、椅子のどの部分も腋窩（腋の下）の下 22cm まではアーチャーの体幹と接触してはならない（椅子にもたれかかっていることを意味する）。
- ・ 地面と接する椅子の脚とアーチャーの足で構成されるスペースは、幅 60cm × シューティングラインに沿って 80cm を超えてはならない。

2.7.2.3 ボディサポートの許可

- ・ 公認 IPC アーチェリークラシファイヤーにより認められた時のみ、用いることができる。

- ・ 立位バランス（静止および動的）が悪い時にボディサポートを用いることができる。
- ・ 第 5 胸髄より高位の損傷者については、ボディサポートまたはボディストラップを用いることができる。

背もたれの支柱からサポートは前方へ 10cm 以上超えてはならない。その内向きカーブの半径は 23cm 以下であり、腋窩の下 11cm 以内にあってはならない。

- ・ ARW1 アーチャーのみ、サポートとストラップを同時に使用することができる。ARW1 アーチャーは押し手を支えるものでない限りは、身体の安定性を保つためにどのような車椅子でも、どれだけのボディサポートやストラップを使用してもよい。
- ・ 椅子のサポート背もたれから前方へ 10cm までであり、その内向きのカーブの半径は 23cm 以下でなければならない。
- ・ サポートは腋窩の 11cm より下になければならない。

2.7.2.4 リリースエイド

両手の指に障害のあるアーチャーは、公認 IPC アーチェリークラシファイヤーの認定があれば、機械的なリリースエイドを使用することができる。

2.7.2.5 コンパウンドボウ

- ・ 上肢障害がある ARW1 アーチャーは、コンパウンドボウの使用が許可されるが、それはリカーブ部門用として FITA 公認のものに限られる。ピープサイト、光学レンズは使用してはならない。また、弓の強さ（ドローウェイト）では、男子は 45 ポンド以下、女子は 35 ポンド以下でなければならない。
- ・ ARW1 アーチャーは、FITA ハンドブックに記載されているフルコンパウンド用具を使用して、コンパウンド部門のオープンクラスで競技することができる。

2.7.2.6 ボウバンテージ

押し手に障害のあるアーチャーは、公認 IPC アーチェリークラシファイヤーの認定があれば、弓を手に結びつける、またはバンテージを使用することができる。

2.7.2.7 ボウ・アーム・スプリント

押し手に障害のあるアーチャーは公認 IPC アーチェリークラシファイヤーの認定があれば、エルボースプリントまたはリストスプリントを使用することができる。

リストサポートを含むリリースエイドは、アーチャーのカードに表記するために、クラシファイヤーに申告しなければならない。

2.7.2.8 スtring・アームリスト・スプリント

引き手に障害のあるアーチャーは、公認 IPC クラシファイヤーの認定があれば、リストスプリントを使用することができる。

2.7.2.9 アシスタント（介助者）

矢をつがえることができない ARW1、ARST-C アーチャーは、矢を弓につがえるアシスタントを使うことができる。アシスタントはどのような助言も与えてはならない（特に、矢のスポッティングの際に関して）。また、シューティング終了の合図があるまで、双眼鏡や望遠鏡を使ってボウサイトを調整してはならない。他のアーチャーの妨げとなってはならず、そして競技者と同じゼッケンを着用しなければならない。

2.8 クラシフィケーションカードの使用

2.8.1 クラス分け評価終了時にクラシフィケーションカードが手渡される。

2.8.2 アーチャーはクラシフィケーションカードを携帯し、競技会開催中に IPC 技術委員または FITA 審判(FITA トーナメントでも)に求められた時にはこれを提示しなければならない。

2.8.3 IPC アーチャーは、FITA トーナメントにおいても公認用具のみを使用しなければならない。